

オンラインコミュニティ 配信テキストサンプル ②

【子どもたちに指導するときの5つのポイント】

今日は、子どもたちに指導するときのポイントをお伝えさせていただきます！

1. 子どもの話をよく聞いてリアクションをする事
2. チャレンジを促し、その取組に対し肯定的に反応する事
3. デモンストレーションで視覚からのインプットを促す事
4. 分かりやすい言葉を使う事
5. 考えさせる事

1. 子どもの話をよく聞いてリアクションをする事

練習会を行う時にまず心がける事は、みんなが話しやすい雰囲気をつくる事です。その第一歩がリアクションです。参加者の子ども達に挨拶を行い、沢山話しかけていく中で、出てきた子どもの言葉に対して、『えーそうなのー。』とか、『それ凄いじゃん！』とリアクションを返すようにしています。すると、もっと聞いて欲しくなり、子どもたちから次々と質問してくれます。

2. チャレンジを促し、その取組に対し肯定的に反応する事

『じゃあ、こんなことはできる？』『次にこれにチャレンジしてみない？』
というように、チャレンジ！という表現で次のステップに挑戦してもらいます。すると、子どもは、出来たらまた認めてもらえる！とパワーが湧いてきます。チャレンジした事が結果的にうまく行かなくても、チャレンジした取組自体を素晴らしかったよとお伝えしていくことも大切です。

3. デモンストレーションで視覚からのインプットを促す

子どもが情報をキャッチする能力はもの凄いものがあります。特に、目で見たものを自分のものにしていく力は素晴らしいです。細かい説明をするより、動きを見せて真似してもらう事が大切だと考えています。出来るだけ、近くで質の高いデモンストレーションを見せることによって動きが劇的に進歩します。

4. 分かり易い言葉を使う

子どもには、専門用語はもちろん理解できません。経験的に理解出来る事例などを踏まえて、なるほど！と納得してもらう事が大切です。例えば、『空気のパンパンに入ったボールと空気の抜けたボールをバウンドさせたら、どちらがより遠くに速く、進んでいくかな？』という分かり易い例えを使い、「地面反力」という難しい言葉を直感的に理解できるようにします。

5. 考えさせる

この視点が実はとても重要です。技術指導などを行う時には、知識を知っている者が、知らないものに伝える構造になるので、時に一方通行のやりとりになってしまいます。

子ども達が頭の中で考える時間を与えて、答えを待つことで、双方向のやりとりが生まれていきます。先程の『空気のパンパンに入ったボールと空気の抜けたボールをバウンドさせたら、どちらがより遠くに速く、進んでいくかな？』という質問を投げかけると、「はい！空気の入ったボール！」という答えが子どもたちから返ってくるでしょう。このようなやりとりを行いながら、『ではみんな空気の入ったボールのように弾んでみよう！』と次のチャレンジを促していくと効果的です！